上峰町立上峰中学校だより

ちんぜい

No.8
発行日：令和8年11月 2日
発行者（文責）：校長 永田康子

学校教育目標：心豊かに たくましく生きる生徒の育成 －自ら考え、判断し、行動する中学校生活を通して－
生徒会スローガン：オリジナル～全員の個性が輝く学校へ～

自分たちの手でつくり上げた文化発表会・合唱コンクール

10月23日（金）に開催した文化発表会・合唱コンクールは、生徒たちの確かな成長を感じる素晴らしい一日となりました。今回の行事でも大切にしたのは、「生徒たち自身が考え、判断し、行動する」ということです。実行委員長を中心に、生徒たちが意見を出し合い、よりよい行事にするために話し合いを重ねながら準備を進めてきました。教師は、生徒の考えを尊重し、必要な場面で助言する伴走者として関わりました。

その結果、保護者席の増設や、当日参観できない保護者のための合唱コンクールの動画配信、全校合唱など、生徒たちの提案から新たな取組が実現しました。自分たちの意見が形になり、学校全体の動きを変えていく。この経験は、生徒たちにとって大きな自信につながったことと思います。

各学年の総合的な学習の時間の発表では、一部の代表者だけでなく、学年の生徒全員が発表に関わりました。一人一人が役割を担い、自分の力を発揮する姿に、生徒たちの成長を感じました。また、英語弁論では、堂々と自分の思いを伝える姿が後輩たちの憧れとなり、吹奏楽部の演奏では、会場全体が一体となる素敵な時間が生まれました。そして、今回初めて取り組んだ「全校合唱」には、特別な意味があったと考えています。学級や学年の枠を越え、全校生徒が一つの歌を歌うこと。それは単に美しい歌声を響かせることが目的ではありません。普段は異なる教室で生活している生徒たちが、同じ目標に向かい、互いの声を聴き合いながら一つのものをつくり上げる経験です。誰か一人が目立つのではなく、一人一人の声が重なることで初めて完成する合唱には、学校という集団の大切な価値が表れています。

行事の成功とは、発表や演奏の完成度だけで決まるものではありません。準備の過程で意見が異なる仲間と折り合いをつけたり、自分の役割を果たしたり、互いのよさを認め合ったりすることにこそ、大きな教育的価値があります。今回の文化発表会・合唱コンクールは、まさに生徒たちが自分たちの力でつくり上げた行事でした。そこで得た自信や仲間とのつながりが、これからの日常の学校生活にも生かされていくことを期待しています。



3年生劇のフィナーレ

地域と学校を支える生徒たちのボランティア活動

本校では、さまざまな場面で生徒たちが積極的にボランティア活動に取り組んでいます。町民大運動会では、25名の生徒が運営を支えるボランティアとして参加しました。また、小学校の体育大会でも、中学生が活動を支える姿が見られました。地域の方々や小学生と関わりながら、自分にできることを考え、進んで行動する姿は大変頼もしいものでした。校内でも、毎朝、校門周辺の清掃や花壇の整備に取り組む生徒たちがいます。早朝にもかかわらず、穏やかな表情で仲間と協力しながら活動しています。昨年度の卒業生がまいた種から育ったコスモスも、今年はたくさんの花を咲かせました。先輩たちが残した思いを後輩たちが受け継ぎ、学校の環境を整えていく姿に、学校のよき伝統が育ちつつあることを感じます。

こうした活動の素晴らしさは、単に人の役に立つことだけではありません。誰かに指示されるのではなく、自分で必要なことに気づき、何ができるかを考え、行動することにあります。また、地域の方から感謝されたり、自分の活動が誰かの役に立ったりする経験は、自分も社会の一員として貢献できるという実感につながります。学校で学ぶ知識や技能は、社会の中で生かされてこそ意味を持ちます。ボランティア活動は、そのことを実際に経験できる貴重な学びの場です。

これからも、生徒たちの「誰かのために何かをしたい」という思いを大切にしながら、自ら考え、行動する力を育んでいきたいと考えています。

「生徒が主体」とはどういうことか

本校では、学校教育目標に「自ら考え、判断し、行動する」ことを掲げ、生徒が主体となる学校づくりを進めています。では、「生徒が主体」とは、どのようなことでしょうか。それは、単に生徒に任せることでも、好きなようにさせることでもありません。生徒自身が「何のために取り組むのか」「どうすればよりよくなるのか」を考え、自分たちで判断し、行動することです。

例えば、学校行事の準備で意見が分かれたとき、教師がすぐに答えを示せば、短い時間で解決するかもしれません。しかし、生徒たちが互いの考えを聴き、話し合い、納得できる方法を見つけていく過程には、それ以上の価値があります。もちろん、うまくいかないこともあります。思いどおりにならず、失敗することもあるでしょう。しかし、そこで立ち止まり、原因を考え、次の方法を見つけることも大切な学びです。教師の役割は、何でも先回りして答えを与えることではありません。生徒が自分の力で考えられるように問いかけ、必要なときには支え、成長を見守ることです。私たち大人は、つい目に見える結果や完成度で子どもたちを評価しがちです。しかし、本校が大切にしたいのは、その結果に至るまでに何を考え、どのように行動し、何を学んだかということです。

自分の考えが尊重され、自分の行動によって何かが変わる。その経験の積み重ねが、自信と責任感を育て、将来、自分の人生を主体的に切り拓く力につながっていくと考えています。

「子ども議会」から「KAMINEL 自治探究フォーラム」へ

これまで本町では、「子ども議会」を通して、中学生が町の課題や将来について考え、自分たちの意見や提案を発信する機会を設けてきました。地域のことを知り、町の未来を自分たちの問題として考える、大変意義のある取組でした。

今年度は、この取組をさらに発展させ、「KAMINEL 自治探究フォーラム」という新たな形で学びを進めます。今回のフォーラムでは、テーマごとにグループを編成し、それぞれのグループに地域の方々が「ラーニングパートナー」として参加されます。生徒たちは、自分たちが調べ、考えてきたことをもとに、地域の方々との対話を重ねながら学びを深めていきます。ここで大切にしたいのは、地域の方々が生徒に正解を教えるのではなく、ともに考える存在であるということです。生徒たちは、異なる世代や立場の方々の考えに触れることで、新たな視点に気づき、自分たちの考えを見つめ直したり、さらに深めたりすることができます。これまでの子ども議会が、自分たちの考えをまとめ、発信することを中心とした学びであったのに対し、今回のフォーラムでは、対話を通して考えを広げ、深めていく過程をより重視しています。地域の課題に唯一の正解があるとは限りません。だからこそ、多様な人々と対話し、互いの考えを尊重しながら、よりよい社会の在り方を探っていく力が必要です。

地域の方々とともに学ぶこの経験が、生徒たちにとって、ふるさとへの理解を深め、社会の一員として主体的に関わっていく第一歩となることを期待しています。